

【泉区】令和4年第2回区づくり推進横浜市議員会議 議事録

| | |
|------|---|
| 開催日時 | 令和4年6月8日 15時30分～16時35分 |
| 場 所 | 泉区総合庁舎4階 4ABC会議室 |
| 出席者 | <p>【座 長】 麓 理恵 議員</p> <p>【議 員：3人】 梶村 充 議員、横山 勇太郎 議員、源波 正保 議員</p> <p>【泉 区：29人】 深川 敦子 区長</p> <p>市川 一弘 副区長</p> <p>秋元 秀臣 福祉保健センター長</p> <p>青木 正博 福祉保健センター担当部長</p> <p>安達 秀昭 泉土木事務所長</p> <p>和田 誠名 泉消防署長</p> <p>ほか関係職員</p> |
| 議 題 | <p>1 令和4年度泉区運営方針について</p> <p>2 令和4年度泉区個性ある区づくり推進費執行計画について</p> |

| | |
|-----------|--|
| 発 言 の 要 旨 | <p>1 令和4年度泉区運営方針について</p> <p>梶村議員：緑園都市駅の入口の信号から緑園義務教育学校の入口の信号までの中田さちが丘線の交通安全対策について。地元では、サンステージ緑園都市東の街から西の街へ横断させてほしいということを強く要望されている方と、それに反対する方がいる。警察の方に確認したところ、信号機の増設はできない、横断歩道についてもかえって危ないだろうということだった。車の速度を落とすために路上にペイントを施すなど、実験的な取組をしている地域もある。そういったことは考えられないのか。</p> <p>安達泉土木事務所長：土木事務所で実施する事業の中でも、車の速度を落とさせるなどの工夫はできないことはないが、中田さちが丘線については、車を通すことを目的とした広い道路。そのため、渋滞させてしまうと、裏道に車が入ってしまう可能性もある。そういったことも踏まえながら対策を考えていく必要がある。ただ、どのような対策をするのか</p> |
|-----------|--|

というのは、まだ検討していない状況。

梶村議員：車を通すための道路だということは承知しているが、地元は納得していない。地域からの陳情があるため、その都度警察や土木事務所等に話を聞いたりしているが、一概に解決が難しい。事故のないように祈るしかない。乱横断をしないよう注意書きをすることもひとつの案ではないか。

安達泉土木事務所長：現状、植栽があり乱横断できないようになっているが、踏み倒されて人が通ってしまっている場所もある。そのような場所は、植栽管理を行うなど、乱横断を防げるところは防いでいきたい。基本的には歩行者は横断歩道や信号のあるところを渡っていただきたい。

梶村議員：休日保育について。ひとり親で土日仕事をしている人がいる。休日保育を利用したくても、泉区には施設がないという相談を受けることがある。区役所に問合せをしている人もいるようだ。民間施設は利用料が高い。未就学の期間だけ我慢すればいいということでもないと思うので、困っている人がどれくらいいるのか、実情だけでも調査してもらえないかと思っている。

朝倉学校連携・こども担当課長：休日保育施設の場所や利用方法について、区役所でお問合せを受けるのは年間2、3件程度だが、潜在的にニーズがあることは承知している。こども青少年局と協議し、実態を確認しながら意見交換をしているところ。

梶村議員：医療従事者など、土日のシフトがなかなか変えられないという方もいる。そのような切実な方にはなんとか対応してもらえないかという思いがある。

朝倉課長：区でもお問合せがあれば、他のサービスで補えないかなど、きめ細かくお一人ずつ対応している。

源波議員：梶村議員から中田さちが丘線の話があった。私も要望を受けたことがある。現時点では対策が難しいということについては仕方がないと感じているが、あそこを通るたびに感じるのは、あれだけ長い道路で、周囲にたくさんの方が住んでいるのに、横断できる場所が全くないということ。信号をつけるとなると様々な問題もあると思うが、見ていると、横断してしまう人も多いようだ。そのため、できることは何かと考えたときに、例えば地下を通る道などはできないか。

梶村議員：地下道については以前、距離等を計算してもらったことがある

が、距離が足りないため設置が困難ということだった。

源波議員：ということは、地上に歩道橋を整備するのはもっと大変だということ。ただ、あの道路幅は少し長すぎる。近所の友人のところに行くだけでも大きく回らないといけない。やはり考える必要はあるのではないか。梶村議員も地下道について検討されたということだが、何か知恵を出していかないといけないと思っている。

安達泉土木事務所長：横断歩道までの距離が長いとストレスになるというのはよく分かる。道路を渡るために地下道をつくるのか、歩道橋をつくるのか、という話があると思うが、それぞれに課題もあり、やはり一番良いのは信号かと思う。ただそれはそれで難しいので、現状、良い案はなかなか見つからない。

横山議員：平蔵橋交差点から坂を上がったところのT字路が怖くて渡れないという声がある。相談を受けたときには、信号が設置できないことは伝えている。実際車で走ってみると、横断歩道が見えない。車に対し、横断歩道があることを強調するような対策ができないか。あの場所でスピードを出した車が事故を起こしたらただ事ではすまない。歩行者を優先できるような対策をしてほしい。

安達泉土木事務所長：当初は信号が設置されると聞いていたが、残念ながら設置されなかった。広く走りやすい道路なのでスピードは出てしまうかもしれない。横断歩道の標識はあるが、横断歩道の距離が長いということもある。車に対し、歩行者がいるということの注意喚起について、どれだけできるかわからないが、検討していきたい。

源波議員：令和4年度泉区運営方針の中の「基本姿勢」に、「戦略的な情報発信」があり、さまざまな取組をしていると思うが、最近の状況を教えてもらいたい。

河村区政推進課長：「戦略的な情報発信」については、なによりも泉区職員ひとりひとりがしっかりと統一的な意思に基づいて広報することが大切だと考え、令和3年4月に泉区オリジナルの広報戦略を策定した。「伝えたいことが伝わる広報を実現」するため、3つの具体的取組を設定している。1つ目は「ターゲットを明確にした情報発信」。2つ目は「広報媒体を有効に活用した情報発信」。広報媒体はさまざまなものがあるが、それぞれメリット、デメリットがある。ターゲットに対しどのようなアプローチをするのがいいのか、メリット、デメリットを分析しながら広報媒体を使っていく。3つ目は「「チーム泉」一丸となった情

報発信」。区職員ひとりひとり広報パーソンだということ。以上のような戦略で広報を実施している。現在では泉区広報戦略の考え方が区役所職員に浸透してきており、区ホームページや広報よこはま泉区版などにお褒めの言葉をいただくことも増えてきた。少しずつ効果が出てきたと思っているが、まだまだ道半ばなので、今後も進めていきたい。

源波議員：泉区の広報が分かりやすいという声を聞いた。引き続き取り組んでもらいたい。

2 令和4年度泉区個性ある区づくり推進費執行計画について

麓議員：外部会議用 Wi-Fi の整備について、これは庁舎のどの部屋に設置したのか。それから前回この会議にオンラインで参加したときに、音声が届かない状況だったが改善できたのか。

原田総務課長：基本的には庁内各フロアに中継基地が設けられている。前回の会議では接続の設定等準備が整っていない中で実施した形で、大変申し訳なかった。現状、Wi-Fi の接続については非常に順調。

麓議員：どこの会議室でも大丈夫か。

原田総務課長：すべての会議室に設けると費用が膨大になるため、一部の会議室については、ポータブル端末を持ち込む必要がある。

麓議員：地域との会議で Zoom を使っている状況を教えてほしい。

深川区長：Zoom で行われている地区連合町内会の定例会に、区役所からアクセスしてオンライン参加した事例などがある。

横山議員：私たちのスマホなども今 Wi-Fi につながることができるのか。

大河原予算調整係長：業務用のため SSID をステルス化しており、自由には入れないよう設定になっている。直接パスワードと SSID を入力すればつながる。

深川区長：区民の方がフリーで Wi-Fi を使えるように今年度検討していく。現時点では外部との会議用となっている。

横山議員：隣地に Wi-Fi がとんでいたりしないか。例えば住宅地だと、隣の家のフリー Wi-Fi を使い放題になってしまうということがある

大河原予算調整係長：Wi-Fi があることがネットワーク上は分からないようになっているため、職員も SSID とパスワードを手入力しないと使えない。

源波議員：資料 1、33 ページの民生委員・児童委員活動支援事業について。新規で実施とあるが、これまでとどのように変わっているのか。あ

るいは、変わるというより全く新しくできたのか。

齋藤福祉保健課長：令和4年12月に一斉改選があるため、新規で予算計上させていただき、民生委員・児童委員（以下、「民生委員」という）の活動をPRするポスターの作成などを予定している。

源波議員：民生委員の数というのは、定数はあるのか。

齋藤福祉保健課長：現状、泉区の場合は定数が191人だが、実際には欠員が出ている地区があり、現状、182人の委員の方がいる。11月いっぱいまで75歳になられている方が定年のため、その後任に新規の方を募集している。

源波議員：後任の見通しは。

齋藤福祉保健課長：見通しは正直に言って厳しい。民生委員の仕事の内容についても様々な課題があり、年齢制限もある。地域の方からも、後任が見つかりにくいという声が挙げられている。

源波議員：大変ご苦勞が多いと思うが、がんばってやっていただきたいと思う。区役所でも地域の様々な課題を抱えている方たちを支援しているわけだが、人数が限られるので、民生委員の活躍が期待される。しかし民生委員も高齢化しているので、担い手を見つけるというのは相当大変だと思う。困難を抱えている方が複数人いる家庭への支援や、災害時の支援、ヤングケアラーへの支援なども含め、国でも力を入れ始めているので、今後ますます民生委員さんが大事になってくると思う。できるだけ確保できるようにお願いしたい。

深川区長：大変厳しい状況で、地域の方々もどうやって民生委員のなり手を探そうかとご苦勞いただいている。そういう状況も踏まえ、民生委員がより活動しやすくなるような支援をしていこうと、今回新規事業という形にさせていただいた。これからも地域の皆さまとともに民生委員の活動を支援できるようさまざまなサポートをしていきたい。

齋藤福祉保健課長：先ほど、定数191人と申し上げたが、こちらの人数は主任児童委員も含めた人数。純粋に民生委員だけの定数は、167人。

梶村議員：資料1、31ページのコラム④「子育て支援情報提供事業～窓口でのタブレット端末活用による効果的な情報提供と面接相談の取組～」について。タブレットは何台くらいあるのか。

中澤こども家庭支援課長：保健師が面接相談用に使っている端末は2台。その他にも何台かあるので、広げていきたい。

梶村議員：対応する言語は、英語、ベトナム語、ポルトガル語とある。泉

区では中国語や韓国語の方も多いと思うが、そのあたりは大丈夫か。

中澤こども家庭支援課長：中国語の方は通訳で対応している。

梶村議員：翻訳機は多種多様になってきている。高価だがWi-Fiを入れると簡単にできるものもある。区役所で購入するのは難しいと思うが。ただ、なんといっても意思を伝えるには言語が分からないとどうにもならないので、他区との共用ということも考えてはどうか。中区など外国人が多い区とぜひ共用するといいと思う。

3 その他

横山議員：年度も替わったので、区長から一言所感などお話をいただきたい。

深川区長：地域の状況について、着任以来この2年間は新型コロナウイルス感染症の影響で、地域の活動も思うように実施できず、私自身も地域のイベントなどに伺う機会が少ない状況だった。3年が経ち、ようやく地域も動き出そうとしている。例えば、夏祭りなど、実施する方向で検討しようという動きが出てきている。区役所が主催する事業や会議も、単に中止ではなく、参加人数を絞るなど、できる限り工夫して進めていく予定。昨年も深谷通信所跡地でのイベントを実施した。少しずつだが、できることからやっっていこうという雰囲気の中で、今年は歌舞伎や区民まつりも実施しようという前向きな動きがあることを実感している。

横山議員：今年に入り、年初から不法投棄の相談が多い。警察に行っても民地のためどうしようもできないと言われる。区役所にも不法投棄に関する相談はあるか。

中盛資源化推進担当課長：件数は手元にないが、相談はきている。やはり、民地のため撤去してもらえないという相談を受けている。何か相談事があれば資源循環局事務所に相談してほしい。また、不法投棄防止のための看板を設置するなど、提案させていただきたい。

横山議員：和泉小学校入口の交差点近くのガソリンスタンド跡地に飲食店がオープンするが、渋滞を危惧する話が非常に多く出ている。近くに郵便局もあるので、時間帯的に郵便局の渋滞が重なると大変なことになると思う。警察でないと対応が難しいかもしれないが、区としては状況を把握しているか。道路的に対策できることはないのか。

安達泉土木事務所長：店ができるとどうしても車が集中し混雑するとい

うのはあるが、道路を広げるわけにもいかないの、うまく店側で制御してもらい、しのぐしかない。店を出してはだめと言うわけにもいかないの、現状、区役所としての対応は難しい。

横山議員：どう考えてもすごい渋滞になるので、我々のところに相談がくると思う。そのような場合でも行政としては何もできないと言うしかないのか。交差点の東の方に畑があるが、そちらの方から長く渋滞してしまうのかなど、地域の方はいろいろなことを心配している。

梶村議員：今後策定される泉区都市計画マスタープランについて。大きな問題として、区民の方が日ごろから行けるような施設が必要だと我々も話している。例えば環状4号線は、瀬谷区の方へいくとかなり店があるが、泉区側にはほとんど施設がない。ぜひ、都市計画マスタープランで施設を誘致することを検討してほしい。容積率の変更なども含め、局に言うべきことは区からきちんとあげてもらいたい。

河村区政推進課長：今お話いただいたような課題を区役所としても感じている。環状4号線の両脇は市街化調整区域になっており、有効活用できていない。また、泉区内には駅が9つあるが、それぞれの駅周辺が第一種低層住居専用地域になっていたり、容積率や建蔽率が厳しく規制されていたり、なかなか駅を拠点として生活の機能が広がっていかない。それらの課題は重々承知している。今回、用途地域等の見直しの話もあるが、長らく実施されていない見直しであり、郊外部の住宅の魅力向上が重点施策になっている。第一種低層住居専用地域の第二種低層住居専用地域への変更や特別用途地区の指定、容積率緩和などがメインになっているので、随時、関係局と連携し、よりいっそう泉区の状況を伝えるなどしていきたい。

梶村議員：以前は大きな道路沿いには住居地域がついていたが、それがいつのまにかなくなった。だから環状4号線のような立派な道路をつくっても、土地の活用ができないことが多い。そういったことも含めて考えてもらいたい。

それから、中田中央公園について。サッカー場を整備できる程度の面積を取得したと思う。泉区はもともと整備予定があったので、そのことを踏まえ、区役所からも局に対して整備について言ってもらいたい。いつ頃やるのか、スケジュール感を合わせて教えてもらいたい。

深川区長：土木事務所を中心に、今の状況を局と共有し、いっしょに考えていく。

| | |
|-----|--|
| | <p>梶村議員：消防団の詰所移設の依頼がきているのが、中田中央公園、新橋。 新橋は2か所一緒に入れるのか。</p> <p>塚原泉消防署副署長：入れる方向で現在調整をしている。</p> <p>源波議員：中田中央公園については、都市計画決定されていたがなかなか用地買収が進んでおらず、やっと進んだ。サッカー場整備も進めようとしているところと思うが、いずれにしても維持管理、運営していくためにはいろいろな費用がかかることもあり、公民連携が大事だと思う。区役所も地域の方たちの考え方を集約しながら、積極的に協力して進めていっていただきたいということを要望したい。</p> |
| 備 考 | |